

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 3 月 25 日	
所属部局・職	公益財団法人日本モンキーセンター・附属動物園部長、園長補佐、病院長
氏名	木村 直人

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
タンザニア国、ゴンベ・ストリーム国立公園およびルアハ国立公園
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
日本モンキーセンター 生息地研修
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 9 月 13 日 ~ 平成 29 年 9 月 22 日 (10 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学理学研究科 人類進化論研究室 仲澤伸子先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

日本モンキーセンターでは、平成 26 年の公益法人化後生息地研修を実施している。アフリカ研修も初年度から毎年実施され、今回が第 5 回となった。平成 29 年 9 月 13 日(水)から 22 日(金)の 10 日間、下記の日程でタンザニア国、ゴンベ・ストリーム国立公園とルアハ国立公園を訪問し、生息地研修を実施したので報告する。

1 日程

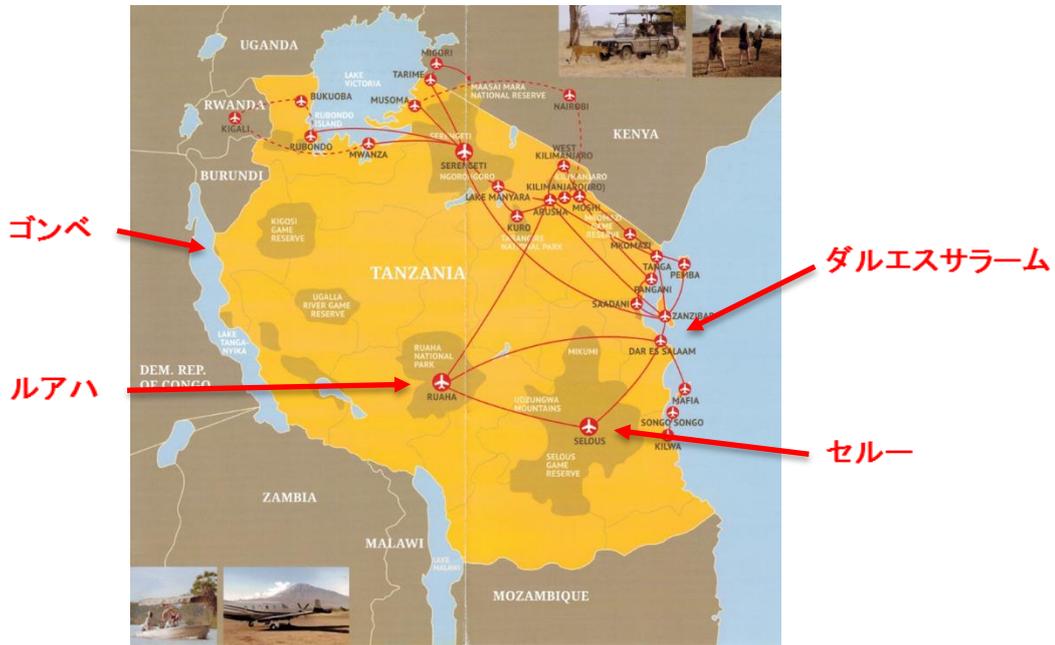
研修の主な日程は以下のとおりである。

2017/9/13	15:00 名古屋駅からシャトルバスにて関空へ 23:00 国際線搭乗手続き		
2017/9/14	0:00 エミレーツ航空でドバイ空港に向け出発 4:30 ドバイ空港到着(時差-5時間) 9:30 エミレーツ航空でダルエスサラーム空港へ 15:00 ダルエスサラーム空港着(時差-6時間) 15:30 バスにてダルエスサラーム市内ニューアフリカホテルへ		
2017/9/15	4:00 ホテル発ダルエスサラーム空港へ 5:30 エアタンザニア航空でキゴマ空港へ 8:30 キゴマ空港着、バスでレイクタンガニーカホテルへ移動 9:00 市場視察 13:00 ボートでゴンベ・ストリーム国立公園へ 16:00 ゴンベ・ストリーム国立公園着	2017/9/19	6:00 バスでダルエスサラーム空港へ 8:30 コースタル航空でルアハ空港へ 10:00 ルアハ空港着 13:00 ルアハ国立公園サファリ① 18:00 サファリ終了、ルアハリバー・ロッジへ
2017/9/16	8:00 ガイドによるイントロダクション 9:00 チンパンジートレッキング① (10:30観察ポイント) 12:30 ボートでロッジへ戻る 15:00 近隣の村訪問	2017/9/20	6:30 ルアハリバー・ロッジ発、 サファリ② 11:00 サファリ終了、ルアハ空港へ 12:00 コースタル航空でダルエスサラーム空港へ 14:30 ダルエスサラーム空港着、バスでニューアフリカホテルへ 16:30 街歩き、販売品買い出し
2017/9/17	7:00 チンパンジートレッキング② 13:00 ジェーン・グドール記念館訪問 14:00 ボートでキゴマへ 16:00 レイクタンガニーカホテル到着	2017/9/21	8:30 ティンガティンガ村およびスリップウェイ視察 12:00 バスでダルエスサラーム空港へ 16:00 エミレーツ航空でドバイ空港へ 21:00 ドバイ空港到着(ドバイ時間)
2017/9/18	8:00 伊谷園長と市場買い出し視察、キゴマ周辺ドライブ 12:00 バスでキゴマ空港へ 14:00 エアタンザニア航空でダルエスサラーム空港へ 17:00 ダルエスサラーム空港到着	2017/9/22	3:00 エミレーツ航空で関西国際空港へ 17:30 関西国際空港着(日本時間) 19:00 シャトルバスにて名古屋へ 23:00 犬山着

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

移動日が計6日間、ゴンベ・ストリーム国立公園のチンパンジートレッキングは2日間、ルアハ国立公園でのサファリ体験は2日間となった。



図は「Coastal Aviation」より（一部改変）

2 参加者

参加者は、以下のとおりであった。（敬称略）

京都大学霊長類研究所	湯本貴和 兼子明久
京都大学野生動物研究センター	Nachiketha Sharma Ramamurthy
京都大学大学院理学研究科	佐藤侑太郎
京都大学理学部	横山実玖歩
京都市動物園	瀬尾亮太 土佐祐輔
日本モンキーセンター	江藤彩子
一般参加	木村直人 2名
	計 11名



ゴンベ・ストリーム国立公園
到着直後の集合写真

タンザニア国内ではずっと京都大学理学研究科人類進化論研究室の仲澤伸子先生が同行していただいた。また、キゴマにおいては京都大学野生動物研究センターの伊谷原一教授に案内していただいた。

3 目的

この研修で初めてアフリカへ渡航した。見たり知ったりやりたいことはたくさんあったが、主な目的を以下のとおりとした。

- ・初めて訪れるアフリカの気候風土がどのようなものか肌で感じる
- ・ゴンベ国立公園では、ジェーン・ブドゥ博士のフィールドでチンパンジーの暮らしぶりをしっかり観察すること
- ・ルアハ国立公園では、乾期のサバンナで暮らす動植物を観察して、野生で生きることとはどういうことかを考えること

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

4 ゴンベ・ストリーム国立公園

ゴンベ国立公園は、キゴマからポートで2時間ほどの距離にある。面積52平方キロメートルのタンザニアで最小の国立公園。ジェーン・グドール博士がチンパンジーの文化的行動を初めて発見し、その後の調査、研究で有名になった。公園内には訪問者用のレストハウスがあり、有料のトレッキングプログラムを体験できる。



国立公園オフィス



面積 52 km²



公園利用の料金表

ゴンベ国立公園では、チンパンジーを2日とも観察できた。初期の餌づけに使われた小屋や道具を見た。チンパンジーの群れが休息する時間帯に、母子のふれあいやシロアリ釣りの様子をじっくり観察することができた。チンパンジーの群れを追って急峻な山中をトレッキングすることで、移動のスピード感や移動中に発する音声を体感できた。シロアリ釣りを目の前で見ることは想定外であったため、夢中でビデオを回した。蟻塚からチンパンジーが去った後に、落ちていたアリ釣り棒の長さ、堅さ、材質についても直接触れてみることもできた。蟻の巣穴に突っ込むと実際に兵隊アリが付いて出て来て、直接観察もできた。



出会ったチンパンジーの群れ



近くで観察できたシロアリ釣り行動



蟻塚と兵隊アリ

途中、ブルーモンキーやアカオザル（混群）にも出会えた。短時間であったが、姿や毛色が美しく感動した。



ブルーモンキー



アカオザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

アヌビスヒヒは、タンガニーカ湖の移動中で最初に出会った。アフリカに着いて初めて遭遇したのがこのアヌビスヒヒであったので、揺れる船内から必死で写真を撮ったが、後にあちらこちらで出会った。ロッジのベランダや宿泊者用の休憩スペースでもお構いなしに尾を立てて歩き回ったり、われわれのトレッキングに付いて歩いたりする様子は、「野良ザル」然としており、次第に「ふつうに居るサル」に思えるようになった。最初と最後に印象がもっとも変化したサルとなったのがこのアヌビスヒヒである。



最初に出会ったサル



トレッキング中に付いてくる



ロッジ前でも (撮影 江藤彩子)

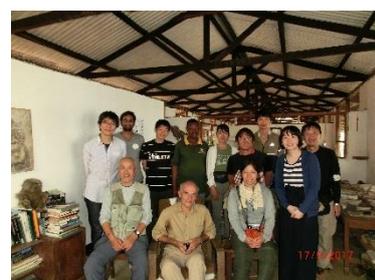
ジェーン・グドール博士の家にも訪問できてアントン博士から解説を聞くことができた。



ジェーン・グドール・ハウス



アントン博士から解説を聞く



集合写真 (提供 戸田氏)

5 キゴマ

ゴンベ・ストリーム国立公園への玄関口がこのキゴマ。マーケットやリゾートホテルもある。ホテルの敷地内にも野生の動物が見られた。マーケットでは、伊谷先生のフィールド調査のための買い出しにも同行し、研究活動の一端を教えていただいた。



サバンナモンキーの親子



シマウマ



ホロホロチョウ

6 ルアハ国立公園

タンザニアを代表する国立公園である。2011年南隣の動物保護区を併入してタンザニア最大、アフリカでも2番目の広さの国立公園となった。面積 20,226 km²。ダルエスサラームから南西方向 (内陸) に位置しており、小型機 (直通) で約2時間、途中セルー国立公園を経由して飛ぶと約3時間掛かる。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



搭乗した小型機



高温低湿度（乾いた大地）



滑走路をシマウマが横切っている



国立公園オフィス



ドライブサファリ

ルアハ国立公園では、ライオン、ゾウ、キリン、カバ、シマウマ、インパラ、バッファロー、キイロヒヒ、イノシシなどとともに、ニシキヘビやナイルワニ、色鮮やかなトカゲを見ることができた。鳥類も多様で、図鑑に載っているいくつかの鳥たちに出会うことができた。



わずかな水場に集まる草食獣



足で穴を掘り水を飲む



水場を独占するカバ



バッファロー



亡骸も各所に



休息するライオン



キリン



アフリカトキコウ



キイロヒヒの母子

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ブラシノキ



バオバブ



セルー国立公園上空
ルアハより東方に位置し水が豊富
大変緑豊かでルアハとは対照的！

7 研修成果の公表

研修の成果の公表は以下のとおり行った。

- (1) 2017年10月10日 日本モンキーセンター全体会議 生息地研修報告
- (2) 2017年10月15日 日本モンキーセンターサポーター専用ホームページ
- (3) 2018年1月27、28日 プリマテス研究会ポスター発表 (JMC 江藤と共同発表)
- (4) 2018年1月31日 中日新聞愛知県内版「愛ラブ自然」記事掲載
- (5) 2018年1月31日 日本モンキーセンター公式ホームページ「獣医室」記事掲載



JMC サポーター専用ホームページ



中日新聞朝刊 県内版
「愛ラブ自然」



JMC 公式ホームページ
「獣医室」

8 まとめ

- ・ アフリカの気候風土（東部・西部・湖岸・森・サバンナ）を体感できた。
- ・ チンパンジーのシロアリ釣り、釣り棒作りを身近に観察できた。
- ・ チンパンジーの子どもがじゃれ合う様子をじっくり観察できた。
- ・ ジェーン・グドールハウスを訪問でき、研究の一端を学ぶことができた。
- ・ ドライブサファリで捕食者と被捕食者の関係を見ることができた。
- ・ 厳しい環境の中で、水と食料を求めて行動する動物たちを観察することができた。
- ・ 観察できたサル類は、チンパンジー、アカザル、ブルモンキー、アヒスヒ、キロビ、ガバモンキーであった。

9 謝辞

本研修は、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の全面的支援で実施されました。

現地で案内していただいた人類進化論研究室の仲澤伸子さんには大変お世話になりました。旅行に同行された京都大学霊長類研究所所長の湯本先生には、ご専門の植物だけでなく、アフリカの風土や決まりごと、動物の解説もしていただき、大変勉強になりました。伊谷先生には、キゴマでお会いすることができました。短い時間でしたが、マーケットでの研究拠点で必要なものの買い出しの実際を見せていただき、研究活動の裏側を知る機会となりました。

また、研修に参加させていただいた職場のみなさま、松沢所長、伊谷園長に深く感謝申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



仲澤先生



湯本先生



伊谷先生（撮影 戸田氏）

大変お世話になりました。貴重な体験をどうもありがとうございました。

6. その他（特記事項など）